

授業概要

科目名	高次脳機能障害学Ⅲ				授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間	1単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年 前期
【授業の目的・ねらい】 高次脳機能障害について総合的に理解し、臨床に関連づけた知識をえる。								
【実務者経験】 言語聴覚士として病院に勤務し、成人分野の急性期から慢性期までのリハビリに従事する。								
【授業全体の内容の概要】 言語聴覚士が高次脳機能障害に行く、評価からリハビリまでの知識を関連付けて考え、技術を修得する								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 高次脳機能障害について理解し、臨床でよく使用される検査の評価が行えるようになる。								
回数	講義内容							準備物(教材)
1	STADについて理解できる(演習含む)							STAD
2	STADについて理解できる・トークンテストについて理解できる(演習含む)							STAD トークンテスト
3	WAB失語症検査について理解できる(演習含む)							WAB失語症検査
4	重度失語症検査について理解できる(演習含む)							重度失語症検査
5	重度失語症検査・CADLについて理解できる(演習含む)							重度失語症検査 CADL
6	CADLについて理解できる(演習含む)							CADL
7	失語症語彙検査(TLPA)について理解できる							TLPA
8	失語症語彙検査(TLPA)について理解できる							TLPA
9	STA新版失語症構文検査について理解できる							STA
10	STA新版失語症構文検査・SALAについて理解できる							STA
11	SALA・SCTAWについて理解できる							SALA SCTAW
12	グループワークにて事例検討を行い、情報収集をする							
13	グループワークにて事例検討を行い、検査結果や訓練内容を考える							
14	各班での事例検討まとめの発表							
15	総復習							
	定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 『言語障害スクリーニングテスト（STAD）』インテルナ出版								
【準備学習・時間外学習】 授業で行う内容の予習・復習を行ってください。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施し、60点以上の場合に科目を認定する。								